

平成 29 年度 第 3 回江別市社会教育委員の会議 会議録

1 開催日時

平成 30 年 2 月 22 日(木) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 00 分
江別市野幌公民館 2 階 視聴覚室

2 出席者

○社会教育委員 7 名

佐藤レイ子委員、高木玲子委員、伊藤穎毅委員、橋本悟委員、辻麻紀委員、
藤田昌之委員、神保順子委員

(欠席：石川奈穂江委員、諏江康夫委員、井上大樹委員)

○教育委員会 月田教育長、渡部教育部長、萬教育部次長

生涯学習課 天野課長、丸山生涯学習係長、井上青少年係長、横山主事、
杉山社会教育指導員

スポーツ課 三浦課長、板東スポーツ係長

情報図書館 山岸館長

郷土資料館 櫛田館長、兼平主幹

3 開催結果

(1) 開 会

(2) 教育長あいさつ

(3) 教育委員会からの第 9 期江別市社会教育総合計画の諮問について

月田教育長から佐藤委員長へ諮問書を手交し、受理された。

(4) 第 9 期江別市社会教育総合計画策定に係る専門部会委員の選任について

佐藤委員長から辻委員、藤田委員、高木委員、井上委員、佐藤委員の 5 名を専門部
会委員とすることを提案し、承認された。

(5) 計画作成に係る社会教育委員の会議及び専門部会のスケジュールについて (資料 2
に基づき生涯学習係長から説明)

こちらは、本日 2 月 22 日以降の計画作成の流れについて、「社会教育委員の会議」及
び「専門部会」の日程を中心に、庁内会議や定例教育委員会、パブリックコメント等
による意見反映などとの関連も含め表にしたものである。

本日、この会議の後に第 1 回専門部会を開催し、次期計画の体系案について協議し、
3 月中旬の専門部会で計画体系案を決定する予定である。

4 月から 5 月にかけての専門部会では、計画の素案について協議を行い、庁内会議で
の協議も踏まえて専門部会としての素案を決定する。

専門部会で決定した素案については、6月から7月に関係団体へ意見調査し、7月の社会教育委員の会議において審議を行う。審議した素案について9月にパブリックコメントを実施し、10月から11月にかけての専門部会、社会教育委員の会議を経て計画素案から計画案となる。

12月に諮問に対する答申を行い、1月の定例教育委員会で審議・決定し、翌年2月の社会教育委員の会議で計画策定について報告する予定となっている。

本で行われる専門部会では、主に資料の次のページにある計画体系案について協議する予定である。以降の資料については、この会議では説明しないが、専門部会の中で、現状や課題、施策体系の基本的な考え方、国・道の動きなどについて詳しく説明したいと考えている。

(質疑等 → なし)

(6) 平成30年度社会教育予算(案)に係る主要事業・補助金について(資料3に基づき各課から説明)

(質疑等)

<質問>

1ページの「公民館備品等整備費」について、中央・野幌公民館の椅子・台車が記載されている。私は公民館を利用することが多く、テーブルがきちんと収まらず移動するときに倒れることがある。テーブルについては記載されていないが、一般利用者の意見の認識という点についてはどうか。

<事務局>

備品等の要求については、長中期的な計画の中で、高齢者が持ち運びしやすい軽量の椅子や机などを要求しているところである。その中で必要最低限の経費が措置されたということであるが、財政状況もあり、配当された予算の中での対応が庁内で指示されているところである。

<質問>

3ページの市民カレッジについて、昨年度の予算から100万円程度減額となっているが、内容はチラシの関係か。

<事務局>

お見込のとおりで、平成29年度から年4回自治会回覧を行っているが、チラシを外注していたものを内部印刷で対応するという部分で、この差となっている。周知自体は継続して行う。

<質問>

6ページの「子ども会育成事業」について、話は聞いていたが金額が大きいので、説

明を聞きたい。

<事務局>

江別・野幌・大麻各地区の子ども会に対して、これまで年間18万円の予算を立てていたが、市の予算が厳しいことから、事務局会議において工夫して減らせないかを協議し、各地区3万円ずつの減額を了承していただいた。他に削減できる部分として消耗品等で3万円、計12万円予算を減らした。

ただ、健全育成活動に関する効果を落とさずに、何とかできる部分で進めていきたいと考えている。

<質問>

8ページの「地域スポーツ活動活性化促進事業」について、地域の要請により軽スポーツ教室等を開催するということであるが、学校やPTAと記載されているので、そこに徹底しているのかということと、江別市の出前講座にスポーツ課の項目が載っていたので、それと関連性があるのかということを知りたい。

<事務局>

軽スポーツの出前事業ということで、主にPTAや自治会に派遣しているが、それに限ったことではなく、要請があれば行く形になっている。これは出前講座と同じ事業である。

<質問>

昨年度はどのくらい開催されたのか。

<事務局>

平成28年度は4件開催して、参加人数は76人となっている。

<質問>

11ページの「子どものための読書環境整備事業」について、各学校に司書が定期的には2～3年に1度回っているところを、希望のある学校にも出向いていくと聞いていたが、今年度の状況はどうか。

<事務局>

昨年度までは期間を定めて各学校を回っていたが、今年度から工夫して定期的に回る学校の他に、短期間でも学校から要望があれば柔軟に対応できるようにしており、それによって対応している学校の件数も増えてきている。さらに来年に向けて、今やっている内容を検証しながら、より良いものにしていきたいと考えている。

<質問>

13ページの「セラミックアートセンター企画展開催事業」の中で、「手島圭三郎」展が予定されているが、具体的な内容が決まっているのであれば聞かせてほしい。市民が気

軽に参加できるように、原画展を行う予定であれば、そこで絵本の読み聞かせなども参加させてもらえればと思う。

<事務局>

手島圭三郎氏はこのたび北海道功労賞を受賞されたので、それを機会に展示会を企画している。代表作としてシマフクロウをはじめ北海道の自然をモチーフにしたものが有名であるが、ご本人の作品に対する想いもあるので、打ち合わせの上、作品を選択しながら展示したいと思っている。

ご本人もこの展示会の企画を喜んでおり、制作の過程や、制作にあたっての想いなどを知っていただきたいという話もあったので、制作のプロセスが分かるような内容も展示したいと考えている。

絵本の読み聞かせの企画も進めており、読み聞かせをなさっている方にお願ひして、セラミックアートセンターの企画展示室などで催しをしたいと思っている。

<質問>

5ページの「市民文化祭開催支援事業」について、第65回だからこの額なのか、毎年このように行われているのか 文化祭の規模について期間や出演内容を聞きたい。

<事務局>

総合型の芸術文化の祭典として、長期間行っている事業である。舞台部門、花や習字の展示部門、短歌・川柳・俳句などの文芸部門、将棋やお茶などの生活文化部門ごとに行われる事業のほかに、えぼあホールで開催される総合芸術フェスティバルなどがある。最も経費がかかるのは舞台部門で、経費の半分以上を要する。

<質問>

舞台とは、市民会館の舞台のことか。

<事務局>

えぼあホールと市民会館である。

<質問>

10ページの「市民体育館改修整備事業」について、弓道場の拡張工事とあるが、学園通側に拡張するのか、それとも体育館の通路の方に拡張するのか。もし通路が潰れるとなると、奥にテニスコートや相撲場があるので、テントや椅子を運んで行う大会に支障をきたす。

<事務局>

市民体育館弓道場の拡張工事については、相撲場の方に拡張するが、拡張の幅を相撲場の活動に影響のない程度の2～3メートル程度にする予定である。

<質問>

車が通れる幅は確保できるか。

<事務局>

大丈夫である。

(7) その他（生涯学習係長から説明）

社会教育委員の方々に、社教情報、社教連会報、平成30年度の全国社会教育研究大会青森大会のチラシなどが来ているので、ご一読いただきたい。

今週24日に市民会館にて、平成29年度の江別市青少年文化賞・スポーツ賞等の贈呈式が行われる。全国・全道大会で優秀な成績を収めた総勢54個人、40団体への表彰が行われる。来賓として、当社会教育委員の会議の佐藤委員長にご臨席いただく。

この後、引き続きこの会場で専門部会を開催するので、専門部会委員の方々は、このままお残りいただきたい。

(8) 閉 会

午後4時00分終了